



## 3年生の取組 「新潟野菜の おいしさ広め隊」

## 「KOBA弁」開発プロジェクト

## 新潟市立小針小学校

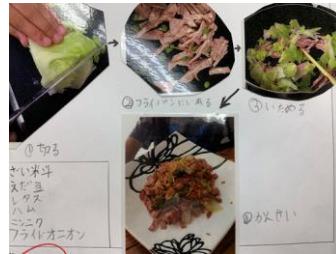
## 6年生の取組 「KOBA弁が できるまで」



春に3年生は、西区の特産品でもある「枝豆」の栽培に取り組みました。実際に生産している方に育て方などをうかがうことができました。  
実際に自分で作ることにしました。



夏休みの間に、一人一人が「枝豆」を育て、実際にどのような食べ方があるのかを調べ、料理してみました。様々な料理方法があることを知り、びっくりすると同時にもっと知りたいと思うようになりました。



今年度のKOBA弁は、西区の食材を使ったお弁当に加えて東京オリンピック・パラリンピック開催を記念した「KOBAリン弁当」も開発しました。

そこで、地域の管理栄養士の方だけではなく、アルビレックス新潟の管理栄養士の方からも栄養バランスについて教えてもらいました。



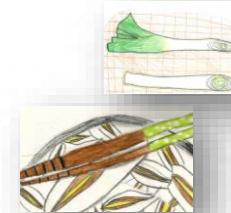
夏休みの学習を発表し合う中で、枝豆のよさを広めるだけではなく、新潟市の野菜を知りたいと思うようになりました。そして、西区の大根の収穫を体験したり、他にも紹介してもらった料理を食べたりする中で、もっともっと新潟市の野菜の魅力を広めたいという思いが強くなりました。

様々な材料を調べ、メニューを考えていくことと並行して、オリンピック・パラリンピックについても学習しました。車いすバスケの選手やアルビレックス新潟の選手から話を聞くこともできました。

これらの学習を基に、「KOBAリン弁当」を考えました。「スポーツ選手に必要な栄養素は?」「五輪の色彩をあらわすためにどのような食材が適しているか?」など、いろいろな視点からお弁当のメニューを考えました。



そこで、新潟デザイン専門学校の先生から食べ物をおいしく見せる絵のかき方やキャッチコピーの効果について教わりました。教わったことをもとにして、それぞれの学級で1つのキャッチコピーを決め、一人一人が自分のおすすめの野菜を絵に表現しました。

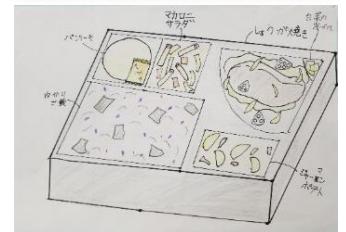
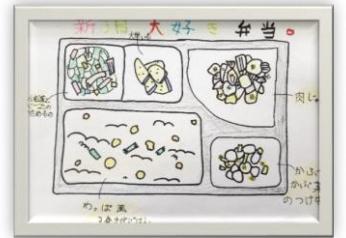


見た人の印象に残る、短い言葉で表現し、新潟市の野菜の中でも、自分が一番食べてもらいたい野菜の魅力を絵に表しました。

枝豆を食べたとき、しゃきとしていて、スイーツみたいに甘かったです。心に残ったことは、キャッチコピーを決めたことです。新潟市の野菜のおいしさや魅力を伝えるためにすごく話し合って決めたので、とてもいいポスターができました。

### 子どもの感想

自分で育てた枝豆を料理するとき、味付けが難しく大変でした。ポスター作りでは、野菜のよさを伝えるために、自分で絵をかいたり学級でキャッチコピーを考えたりしました。



総合で楽しかったことは、ポスターのキャッチコピーを学級で決めたことです。町たんけんで、JAの小林さんに会って、そのときは、ポスターを作るなんて夢にも思っていませんでした。新潟野菜を知ってもらうために、キャッチコピーが完成したときは、とてもうれしかったです。



JA新潟みらい「いっぺこ〜と」で、私たちの考えたメニューを商品化し、販売してもらいました。「価格に見合う食材なのか?」「この季節に入手できる食材なのか?」「調理が可能なメニューなのか?」など、商品化するための様々なアドバイスをいただきながら、KOBA弁を考えました。1月29日(火)から1週間交代で4種類のお弁当を毎日50食限定で販売しました。6年生全員が交代で販売のお手伝いをする中で、自分たちが考案したお弁当がお客様に届く喜びを実感しました。

### 子どもの感想

お弁当販売では、私たちも笑顔で丁寧にお弁当やお金を渡しました。一生懸命考えたお弁当のおいさを伝えることができたと思いました。

最初、KOBA弁の販売が始まったことが伝わっていなかったけど、みんなで声を出したり、チラシを配ったりしてKOBA弁のことを伝えました。お弁当の中身を見て買ってくれる人もいて、私たちが彩りについて一生懸命考えたことが伝わったのだと思いました。見た目も大切だと思いました。

